

## 平成27年度 学校評価 自己評価書

あま市立七宝小学校

### 1 総括

#### (1) 教育目標（学校経営案より）

「じょうぶで、なかよく、しんけんに」を校訓とし、知・徳・体の調和のとれた人間形成を目指すとともに、生涯学習の視点に立ち、社会に貢献できる児童の育成を図る。

#### (2) 本年度の重点努力目標

##### ア 校内現職教育の推進

- ・ 「協同的な学び」のある授業を行い、創意工夫する中で教師の力量が高まる学校を目指す。
- ・ さまざまな場面を通して、児童一人一人の学び合う力を伸ばすことができる研究を進める。

##### イ 児童理解の充実

- ・ 児童や保護者の理解や信頼を得るために、日ごろの関係づくりを大切にする。
- ・ 児童との相談活動を充実させ、家庭環境や家族関係などを考慮した児童理解に努める。
- ・ 教職員全体で情報を共有し、指導に当たることができる体制を整える。

##### ウ 子どもたちの環境整備

- ・ 自然（命）や物、時間を大切に扱う心を育む場を意識した教育活動を行う。
- ・ こども見守り隊やボランティアの協力、充実を図る。
- ・ FBC花壇の世話を児童や職員、保護者とともに推し進める。

##### エ 地域社会の中の連携

- ・ 近隣の小中学校と連携を強め、地域の願いを生かすように心がける。
- ・ 保護者を含め、地域のボランティア講師を招いて、児童とのふれあいや関わりを深める。

### 2 自己評価の実施体制

(1) 調査時期 平成27年11月30日～12月22日

(2) 調査項目 別紙アンケート参照

(3) 調査対象 有効回答者数／対象者数

- ・ 児童生徒 325名／全 326名 ・ 学校評議員 4名／全 4名
- ・ 保護者 493名／全 499名 ・ 教職員 26名／全 26名 計 848名

### 3 調査結果【資料として添付】

別紙アンケート結果参照

### 4 考 察【児童・生徒、保護者、教職員、地域等の総括的考察】

(1) 全体を通して、特徴的であったのは、教職員において、15項目中良くなったのは2項目のみで、9項目が悪くなったことである。対象者数がわずか26名であるため、大きな変動があっても不思議ではないのだが、例年の傾向と比較すると、教職員の自己評価が厳しめであったように感じる。逆に、保護者・児童の評価は、合計30項目中悪くなったのは保護者の1項目のみで、12項目で良くなっている。保護者においては、昨年度同様、達成状況のAが15項目中14項目を占めており、唯一悪くなった項目「家庭で、わが子はよく話している」でも前年度の94%が91%へ微減したのみで、高い水準を保っている。

(2) 児童アンケートを学年別に見ると、「おうちの人にもっと学校での様子を見てほしい」の項目の数値は昨年度同様低いが、昨年度より3%ほど上昇している。「家で進んで勉強している」も、昨年度と比較すると、8%良くなっており、年々上がりつつある。「学校の授業は、わかりやすい」では、各学年ともに

達成状況Aの割合が昨年度より高くなっている。また、昨年度5%上昇した「進んであいさつをしている」では、さらに4%上昇し、中学年以上の児童のあいさつに対する意識の高まりを感じる。

- (3) 教職員の評価では、9項目が昨年度より下がっている。ただし、達成状況のみに絞ってみると、Aが11項目、Bが1項目、Cが2項目と全般的には、昨年度よりバランス良くまとまった結果となっている。「人に進んであいさつをしている」や「進んでお手伝いに取り組めるような働きかけをしている」では、達成度がC評価となっている。学校として取組や徹底の方法を反省するとともに、児童自身が考えて行動する態度を身につけさせたい。
- (4) 保護者からは、学校の取組を評価する内容、改善しなくてはいけない点について多くの指摘があった。学校独自で取り組めるもの、そうでないものを精査しながら検討し、前向きに取り組む必要がある。

※詳細は、別紙「保護者意見集約」参照

## 5 成果と課題

### 《成果》

- (1) 保護者アンケートでは、多少の変動はあるものの、全般に高い数値で安定しており、14項目で達成状況がAである。そのうち11項目で90%を上回っており、好意的に学校をとらえているといえる。今後も「開かれた学校」をアピールし、保護者の理解を得ることが大切である。
- (2) 児童アンケートの結果は、15項目中11項目で昨年度より良くなっている。残る4項目も変動なしで、悪くなっている項目は一つもない。「学校の先生方は、自分ががんばったとき、よくほめてくれる」の項目が9%良くなっており、学校や教職員に対する信頼が増していることがうかがえる。

### 《課題》

- (1) 「家庭で自主的に学習している」の項目の保護者評価が低い。教職員は、「自主学習に取り組めるように働きかけている」では、7%下がっており、保護者評価の低さを裏付ける形となっている。学習の進め方や取組の方法などを家庭に伝えるとともに、具体的な方法を学校全体で考え実践を進めたい。
- (2) ここ数年教職員の評価が低かった挨拶に関する項目が実に19%もアップしている。保護者、児童ともに挨拶の項目は達成状況が90%近くであり、教職員との意識のずれが大きかったのだが、今年度は三者の意識が大きく近づいた結果となった。ただし、保護者や地域の住民からも挨拶の徹底を望む声が学校に伝えられる状況は変わらず、日々指導や声かけをしている。さらに具体的な指導や方策を考え、今後につなげたい。
- (3) 児童アンケート、保護者アンケートともに「授業が分かりやすい」の項目がやや上がっている。学力向上の取組を進め、学習の中でどのように児童を生かし、支援するかについて現職教育を推進する必要がある。項目8「毎日、学校へ行くのが楽しい」では、まだ11%の児童が楽しさを実感できていないことが調査から分かり、そのような児童の気持ちに寄り添う指導を工夫することが必要である。

## 6 改善策

- (1) 児童会に呼びかけ、校内のあいさつ運動をさらに拡大し、実行する。
- (2) 各種行事の開催（時期や方法）についてのご意見をいくつかいただいた。保護者の要望を念頭に置いて、職員で検討したい。